

2019年  
クイーン倶楽部だより 3月号  
第193号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟  
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447  
URL <http://www.eco-rice.jp/>  
E-mail [office@eco-rice.jp](mailto:office@eco-rice.jp)

文部科学省 平成30年度/青少年の体験活動 推進企業



右:平石マネージャー



都会の学校で田んぼづくり！  
子供たちと「稲作！」



社会貢献活動を通じた青少年の体験活動に積極的に参画した企業として、エコ・ライス新潟が文部科学省より、「審査委員会奨励賞」をいただきました。都会で生活する子供たちが、学校生活の中で田植え、稲刈りなどの農業体験をすることにより、五感を通じて学ぶことができます。収穫したお米は、給食にするとともに「ポン菓子」にして、多くの人で分かち合い、喜びを感じています。農業・食の大切さや楽しさを体験することで、日本の米文化・農業の問題、日本の食の未来について学んでいってほしいと願っています。



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。

ドクター "N" の

私にも一言言わせて

その 47

※ドクター…英語で博士の意味

これからの沖繩

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設を進めるべきか、を問う県民投票が、二月二十四日に実施されました。その結果は、投票率五十二%で、反対七十二%、賛成十九%、どちらでもない九%で、多くの県民は移設反対の意思でした。

沖繩は日米戦争で本土への楯に使われた事実により、ひどい目に合ったので、本土の身勝手な意識をぬぐい去ることができず、兎に角これ以上軍事に関わりたくないのが心情でしょう。

大和衆の為政者は、今回の結果を尊重すべきです。結果に法的制約はないと一蹴せず、これが県民の声と尊重し移設は中止すべきです。丁度埋め立て地に広範な軟弱地が見つかり、かなりの数の杭打ちという大幅予算増加の懸念事項が出たので、これを奇貨として中止発表することできます。

移設中止後は、米軍出ていけ、が流れとなってゆくでしょう。問題は米空軍無き沖繩です。米国後、隣国が触手を伸ばしてきます。強きものが弱きを併呑するのが、この世の慣わしで、仕掛けてられて何もせずは、暗黙を意味します。その例として、竹島の例があり、長期滞在は所有権移転にもなり、まず話し合いで変換は不可能です。

対応策は自分の国は自分で護るが国際法の基本です。スイスは国民皆兵制で、徴兵が有り、訓練を受ける義務があります。世界は国民皆兵制に舵を切りつつあります。

もし、米国が兵を取めたら、憲法違反の自衛隊で大国の圧力に耐えきれぬか、討論する必要があります。平和と叫びつつ説得できることは世界的にありません。

今回の沖繩の声と受け取り、今後は日本の防衛のあり方の結論を出すべきでしょう。